

# 塩ソムリエ協会が本格活動

## 「塩検定ディプロマコース」開講

世界の塩に関する正しい知識の普及などを目的に、3月14日に設立された「一般社団法人 日本塩ソムリエ協会」は、第1回「塩検定」

講座を5月20、22日に、大阪市天王寺区のたかつカーテンで開講した。

同協会では、「塩検定ディプロマ」(マスター、ジュニ



ア)で人材を育成し、様々な活動を通じて正しい知識の普及・啓蒙活動を推進していく。今回は、大阪本部(中川功氏)と千葉支部大(嶋稔支部長)

との合同開催。今後、全国各地で展開する予定だ。

約50人が受講し、沖縄の

ソルトと観光、パキスタン観光と天然資源、ソルト医学・健康学、ソルトの免疫力、生命の起源と塩、塩のある健康な生活、ソルト食品学、食の栄養、フランス学、ソルトセラピー学、ソルトの歴史学、ソルト貿易学、南アジアのソルト文化、ソルトと野菜の応用学、ソルトとミネラル学——などについて学んだ。

冒頭、中川功会長は、「塩は近年患者にされている

が、人間は塩がないと生きられない。塩は体温の維持、発汗、利尿など重要な生命維持機能を担っている。塩の重要性を改めて認識してほしい」と挨拶。日本が輸入している岩塩の主要な供給国である、パキスタンのムハマド・ジャドマニ大使、イムティアス・アハマド公使、タヒム領事も出席した。

講座の中では、「日本の現在の塩の多くはイオン交換

で生産されるため99%塩化ナトリウムであり、重要なミネラルが含まれていない。米国のある調査では、塩分摂取量が少ない程、死亡率が高いという結果が出ている。パキスタンには大規模な岩塩鉱山が4カ所あり、日本は年間約1000tを輸入している」など、専門の講師により、重要な知識が伝達された。

20日夜に、シェラトン都

ホテル大阪で行われた懇親会では、お笑いのかつみさゆりも出席した。

同協会は、日本で世界で初めて設立された、塩の専門教育普及団体。塩は1997年に自由化されたものの、長らく専売制度下にあり、日本には岩塩もないことから、一般に塩に関する知識は極めて乏しい。今後の活動が注目されることだ。

食品産業新聞

2011年6月2日 (木)